

# カナン村



第 106 号

発行  
社会福祉法人いわき福音協会  
カナン村

いわき市平上平窪字羽黒 40  
TEL (0246) 23-8611  
FAX (0246) 23-8612  
E-mail kanan@bz03.plala.or.jp



昨年の異動により、十二年ぶりに古巣カナン村に戻り、この四月に所長職を拝命いたしました。何卒よろしくお願

いを見いだすことを目的と  
していました。  
しかし、福祉施策の変更に  
伴い、平成二十一年四月一日  
開設。名称を指定障害者支援  
施設カナン村として新制度  
(障害者総合支援法)の中で、  
施設入所支援事業・生活介護  
事業・短期入所事業等の事業  
展開がなされています。施設  
を利用する人達も高齢化・重  
度化が進み、以前の様に作業  
中心の生活から介護を中心と  
した施設生活になってきてい  
ます。  
施設利用者さんへの支援  
は、「そのひと・そのひとに  
合った支援」個別支援計画が  
必要であり、何よりも支援さ  
れる側と支援する側との信頼  
関係は不可欠で、お互いに共  
通の理解がなければ成り立ち  
ません。  
以前私が指導員(支援員)  
として勤務していた時に心を  
打たれた文章があります。今  
でもその文章が脳裡に浮かん  
できます。それは、広報カナ  
ンに掲載されていた「雲の柱」  
(利用者提言)の文章の中で、  
『十数年という歳月は希望を  
忍耐に変えていった。どうし  
てだろうか。私の心の中で  
のないものねだりがはじまっ  
た。仲間はいつたい、何を考  
えているのだろう。良い事と  
悪い事は気付いてほしい。そ  
して職員は、何を考えて共に

働いているのだろう。もっと  
信頼され、希望と勇気を見出  
してくれる存在であってほし  
い』とある。ここでの「ない  
ものねだりがはじまった」を  
自分なりに解釈すると、職員  
への忠告のようにも思えま  
す。「貴方は職員としてここ  
で何をしているの?何を考え  
ているの?もっと私たちの事  
を考えて、夢や希望を与えて  
くれる存在でいてほしい」と  
訴えているように思えます。  
職員へのないものねだりであ  
れば、その人にどう寄り添  
い、どう支援すべきか自ずと  
わかってくると思います。  
私が古里「カナン村」を離  
れ十二年の歳月が流れました  
が、施設を利用している人達  
は温かく私を迎え入れてくれ  
ました。時代の流れと共に福  
祉を取り巻く環境は日々変化  
してきていますが、施設を利  
用している人達の思いは以  
前と変わりありませんでした。  
利用者さんの優しい心に  
触れ、微力ではありますが頑  
張りますのでご家族、ボラン  
ティア、地域の皆様の御協力、  
御支援を宜しくお願い致しま  
す。



「古里に思いを」  
所長 猪狩 忠

# ニユー・スプラッシュ

## 平成二十六年年度の事業計画

社会福祉施設等耐震化等補助事業助成金を受け大規模修繕工事が、昨年完了しました。一年が経過しての暮らしぶりをみると、利用者さんは、リニューアルした居室に慣れ親しみ笑顔が見られ快適に過ごしている様子が伺えます。

今年度は、施設のハード面で、更なる充実を図り利用者の、より一層の快適な生活を送れるために以下の事業を計画的に推進していきます。

- ① エリコ館(カナダより寄贈)建設に伴う。渡り廊下の整備事業。
- ② 旧授産施設時代の、鶏舎関係の解体工事。
- ③ 作業訓練棟の修繕工事業。雨漏り修繕及び塗装工事。
- ④ 施設全体の雨といの(劣化による)取替工事。
- ⑤ 施設周辺の施設整備事業。設北側山林を含めた環境整備。

以上の事柄について、今年度は計画的に事業を展開し、利用者が利用しやすい住環境の整備を目指します。

### 支援部門

障害のある方の日常生活を総合的に支援する為の法律として、障害者総合支援法が施行され一年が経過しました。国の推進する障害保健福祉対策の工程としては、平成二十四年度からの第三期障害福祉計画の三年目で、最終年度となります。



この四月からは障害程度区分が障害支援区分に見直される等、当施設を利用されている方へも関わってくる項目がある様です。

障害者福祉は時代と共に変遷を繰り返して、現在は障害のある人も普通に暮らし、地域の一員として、共に生きる社会を目指した障害者福祉サービスとされ様々な形で展開されています。その中で当施設は、施設入所支援と生活介護を中心とした事業所となり、利用されている方、一人一人の希望やニーズに基づいた個別の支援を提供しています。

法人内のサービス検討委員会を初めとする各委員会と連携し、サービスの質の向上と、多様なニーズへの対応を目的し、また、利用されている方の要望や嗜好を中心に据え、顧客満足度を高めていく様に、定期的な評価等についても取り組んでいきたいと考えています。



### 医務部門



給食では、四季折々の季節にあわせた食事の提供と行事食を中心に利用者さんに楽しんでいただけるよう、本年も継続し食事提供に努めていきたいと考えております。また利用者さんの高齢化や機能低下に伴い、食事内容や食形態の変更、生活習慣病の予防や改善に努められるよう、医師と相談しながら個々の状態にあった食事の提供を行ってまいります。

### 給食部門

今年度四月よりカナン村開所以来初めて、看護師二人体制となりました。

利用者さんの高齢化により身心の機能低下が見られ、入院や通院を必要とされる方もおり、日常的な症状の観察、医療的な対応が多くなっております。

毎年、生活習慣病健診を行っておりますが、麻痺や筋緊張、関節の拘縮等で検査が出来ない項目もあり、今年度は嘱託医や協力医療機関と連携を図りながら、検査項目を見直し、新たな検査項目を取り入れ実施したいと考えております。

また、健診結果を職員間で共有し、利用者さんひとりひとりの健康維持と向上に努めて行きたいと思っております。





カナン村が授産施設の頃より続けてきたものに生産活動があります。以前に比べて規模こそ縮小してしまいましたが、オカモトゴムさんの協力と利用者の皆さんの強い声もあり、一日の充実した活動の一つとして続けていきます。

物を作る、体を動かすだけでなく『働く』事は自信と達成感につながっています。参加者は一様に真剣な表情で取り組み、終業時にはやり遂げたと笑みが浮かび満足気です。参加した誰もがそんな風に、少なからず気持ち共

## 日中活動紹介



近いようで身体の不自由な方にはまだ少し遠い映画館。それならば、と、カナン村に映画館を持ってきました！

今年度から月に二回、映画鑑賞を行います。食後のひと時だけではありませんが、食堂が映画館に早変わり。利用者の皆さんが青春時代に見た不朽の名作・気になつていただけと見ることでできなかつた作品・この間まで映画館で上映されてきた最新作など、皆さんの要望をできる限り取り入れて、楽しい時間を過ごすことができるように試行錯誤中です。

一つの映画を大きな画面で見るとは格別で、一緒に見ている職員がはしゃいでしまう一幕もあるとか。



みなさま、こんな映画が見たい！この映画はおススメ！といったものがありましたら、ぜひぜひ職員にご一報ください。



## リハビリ体操

リハビリ体操をさせて戴き二年が経過しました。

リハビリテーションとは障害があってもその人らしく生き直すという意味があります。したがってリハビリの第一の目標は利用者の自主性です。誘導や介助依存から目的を持って自主的に参加する。次は本来は動けても普段は使わない動きです。完全でなくもいいです。少しの動きでも使わなければ低下します。二年間この自主性と低下予防を主にリハビリ体操をしました。スタッフの方にも話して協力をお願いしました。二年を振り返って目的意識を持って自主的に集合する人



が増えた。発声の増加。グループ内の協調性。体操の前後で自身の動きを確認できる。等僅かな変化がありました。毎日が楽しみと言う利用者が増えて励まされています。

(作業療法士 渡辺幸代子)

カナン村では、作業療法士の渡辺幸代子さんにより、毎週火曜日の午後にはリハビリを実施しています。障害や身体機能により三つのグループに分かれ、それぞれにあった無理のないリハビリ運動を、渡辺療法士の専門的な指導により行っています。立位、座位の姿勢保持、歩行訓練、四肢の筋力維持、関節可動域確保の訓練などを取り入れて、利用者さんたちも積極的に楽しんで参加しています。



### お花見会

暖かくなり本格的な春の訪れを感じられるようになった四月十六日、毎年恒例のお花見が行われました。暖かさに誘われてみんなで



周辺を散歩しているのと、予想よりも早くも若葉を覗かせた桜が私たちに楽しませてくれました。桜を見て待った昼食。色彩豊かな花見弁当は、先程とは別の意味で、私たちを楽しませてくれました。終始笑顔が絶えなかったお花見で、今年度も楽しいことがたくさんありそうだと感じました。

### 植栽の寄付

磯上延男さん宅より玉つげと、芳賀亜希子さん宅よりミルキー、それぞれ植栽の寄付を頂きました。大規模修繕を終えて二年目を迎えるカナン村の庭が新緑に彩られています。ありがとうございます！



### カナン村内&周辺 最新放射線量 測定結果

(2014. 5.13 現在)

玄関前	0.106
男子棟	0.083
男子棟前庭	0.093
女子棟	0.080
女子棟前庭	0.094
食堂	0.091
体育館	0.089
作業棟	0.059

施設内外とも、異常ない数値となっております。

(単位：マイクロシーベルト)

### 「スロットマシン」をいただきました

五月十四日、株式会社ゼウス東北様より「スロットマシン」をご寄付いただきました。この機械は、ギャンブルに興味のない利用者さんにも楽しめる様に、コインなどを使用しなくて良い様に改造されています。早速利用者さんたちは、「スロットマシン」

を楽しんでいました。余暇活動の中で、活用させていただきます。ありがとうございます。



### ニューフェイス

### 紹介

四月からカナン村に通所している長谷川恒さんです。

いつもニコニコ素敵な笑顔の長谷川さんですが、実はとても絵が上手いんです！特徴をつかんだ独特な似顔絵に、「次は俺を描いてくれ！」と色んな人に頼まれることも：

長谷川さん、これからもよろしくお願ひします！



誰だか分かりますか？

# 徒然なるままに

vol.1

天声人語記載のパーキンソンの法則によると、定年の年齢に科学的根拠はなく、確かなのは、何歳に設定しても、その三年前から人間の能率は衰え始めるというものである。

自身を振り返ってみれば、東日本大震災の影響で、二〇一一年の人事異動は通常の四月から三ヶ月遅れての七月になった。そんな関係で本来なら三年になる筈がカナン村の実働は二年九ヶ月になった。

能率が衰えたかは別にして、即やるべき課題が目の前にあった為に、自身を分析する時間の暇のないままに退職日を迎えたというのが実情である。

退職の日、利用者と職員による賛美歌四〇五番で見送られた。クリスチャンでもない私が言うのもおかしいかもしれないが、私にとり思い出深い一曲である。

最初に勤務した肢体不自由児施設・福島整肢療護園(病院・児童施設)は、障がいを持った



児童が乳幼児の頃から治療や訓練のために親元を離れて県内各地から入園して来る。やがてその子どもたちも、手術やリハビリを終え、一定の成果があがると退園し故郷に帰って行く。短くて一年未満、長くなると十数年間の入園生活である。

退園の日、玄関先で一緒に過ごした仲間や職員に見守られながら四〇五番「神ともにいまいて」の賛美歌に送られて新たな旅立ちをするのである。

神ともにいまいて／ゆく道をまもり／また会う日まで／神のまもり／汝が身を離れざれば家に帰れる嬉しき、これから先の生活への不安、兄弟のように過ごした仲間との別離、寂し

さや様々な思いが目まぐるしく交错して先生に縋って泣く児童、職員も同様に嬉しい反面、寂しいような気持ちになるのである。

調べによると賛美歌四〇五番の英語題は「God be with you」(神の守りがありますように)で、短縮系にしたのが「God be」(サヨナラ)なんだそう。さて、現役からグッドバイをして早二ヶ月ほどが経過した。毎日が日曜日となり、勤務していた頃に比べると、何となく曜日の感覚が日に日に薄れ始めている。それでも意外やそれを確かめる方法が分別ごとに記されたゴミの収集日のカレンダーにあることに気が付いた。

パッケージの簡素化などで以前よりゴミの量は少なくなっているというものの、便利になっていく分、増えていく種類のゴミもあり「武器よさらば」のように「ゴミよさらば」とまではいかないようだ。マスコミを賑わしているSTAP細胞もいいが、できることなら環境に優しく、自然に還るパッケージや洗剤などが早めに関発されないものだろうか。

(大河内記念館 館長 岡部 明)

## 異動 新採用 職員紹介

今年度より新たに五名の職員がカナン村の一員になりました。



パート調理員 長友道子さん

調理員 馬場みどりさん



支援員 鯨岡晋一さん (野の花ホームより)




支援員 鈴木美奈さん

看護師 坂本洋子さん

よろしく  
お願いします!

☆個人情報保護法の全面施行に鑑み、紙面内写真は、本人等の了解のもと、掲載しております。

平成26年 1月～4月の歩み

1月	6日	法人新年のつどい	
	9日	平成 25 年度職場研修フォローアップ研修 (福島市)	
	16日	第 3 回法人職員研修会	
	23日	施設見学 (いわき育成園より7名)	
	26日	災害時における障害福祉事業所事業継続 (B P C) を考えるワークショップ (安積ホスピタル)	
2月	29日	苦情解決委員会	
	31日	理事会・評議員会	
	6日	業務分担検討会	
	7日	福島県障がい者虐待防止・権利擁護研修 (福島市) 腰痛予防対策講習 (郡山市)	
	13日	介護プリセプター模擬研修新人OJT (いわき市)	
3月	14日	平成 25 年度福島県身体障害者施設協議会理事会 (郡山市)	
	15日	第 2 回いわき地区障がい者福祉連絡協議会研修会 (いわき市)	
	21日	生活習慣病健診	
	2日	厚生労働省企画課長来訪 (地域交流センター)	
	6日	平成25年度東北ブロック身体障害者施設協議会施設長会 (仙台市)	
4月	13日	全国身体障害者施設協議会セミナー (東京都)	
	14日	消防設備点検	
	25日	理事会・評議員会	
	30日	リフト付ワゴン車整備	
	31日	40周年記念誌発行 法人職員退職辞令交付式	
4月	1日	法人新採用職員・異動職員辞令交付式	
	7日	新採用職員研修会～8日	
	8日	ショッピングデー1班 (イトーヨーカドー平店)	
	16日	お花見 (施設内)	
	17日	ショッピングデー2班 (イトーヨーカドー平店)	
	24日	ショッピングデー3班 (イトーヨーカドー平店)	
25日	カナン村協会の役員会・総会		



新車リフト付車両「ハイエース・ウェルキャブ」



日頃の通院や外出、そして行事などで当施設の皆さんの出掛ける機会も年々増えている中、リフト付車両が一台仲間に加わりました。この種の車両も年々進化し、乗り降りが安全な面でも改良され、使い易く

なっています。これから出掛ける機会が増えそうです。五月十五日には、早速外出行事でいわき・ら・ら・ミュウ

に出かけました。



「ありがとうございました。」

三月三十一日付で、二名の職員が退職しました。

岡部 明所長  
佐藤しづいパート調理員

長い間お疲れ様でした。



あとがき

今年もカナン村にツバメがやってきた。何往復も泥と草を運んで巣を修繕している姿を見ると、春の訪れを感じる。とともにその働き者ぶりに頭が下がる。

ツバメと言えば、農家にとっての害虫を食べてくれるので益鳥として扱われている。他、巣を作る家は縁起がいいという言い伝えがある。調べてみるとこれは全国各地で言われており、病人が出ない・火事にならない・お金持ちになるなど、数多くの言い伝えがあった。

実際はどうか。カラスなどの外敵に対する力に乏しいツバメは、人間が生活していて、安全で安心できる場所に巣を作る習性がある。いつからかそれが転じて、家に福をもたらすという言い伝えになっていったようだ。

我々が利用者と暮らしているカナン村は、ツバメにとっても安心できる環境なのだと思う。電線にとまっているツバメを見ながら、何かしらの福が近づいているのかもと思うと心が軽くなる今日この頃である。



(蜜)